



将来に向けた須賀川地域における 園芸産地の維持と推進体制の強化 (ものづくり)

～産地で育てる！きゅうり新規就農者・若手農業者の育成支援～

県中農林事務所 須賀川農業普及所
所長 大橋 金光

須賀川農業普及所管内のきゅうりの概要

	栽培戸数 (戸)	作付面積 (a)	施設面積 (a)	販売金額 (億円)
R 5	4 7 2	9,8 0 7	5,2 3 9	2 4.3 1



- 須賀川市
- 鏡石町
- 天栄村
- 石川町
- 玉川村
- 平田村
- 浅川町
- 古殿町

- 「夏秋きゅうり」「冬春きゅうり」の野菜指定産地であり

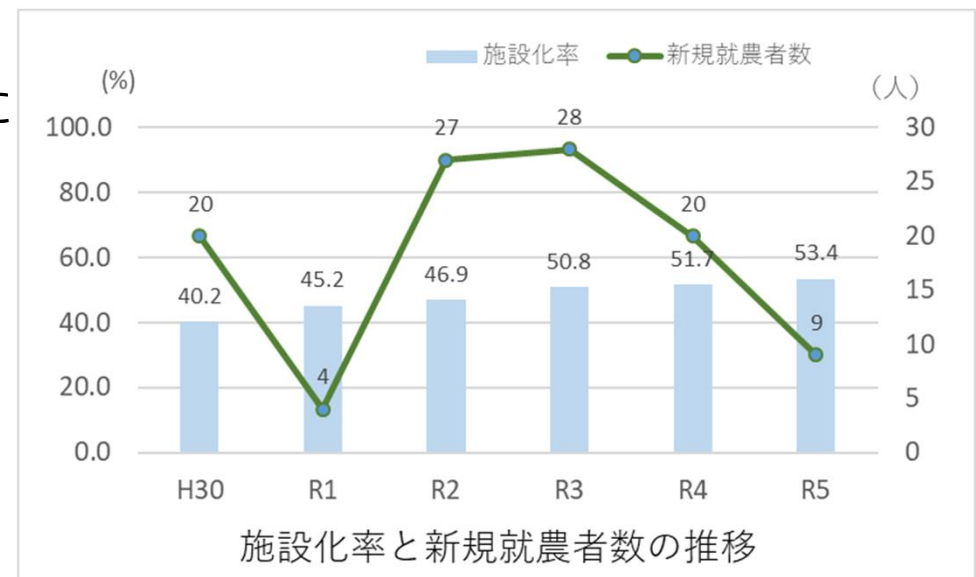
きゅうりの大産地！

背景（現状と課題）

◆須賀川地域はきゅうりの主要な産地であるが、高齢化により作付面積は減少傾向で、急激な産地基盤の弱体化が懸念される。

◆新規栽培者は毎年確保しているが、技術習得に時間がかかる。「先が見えない」と不安を抱える人も多い。

◆野菜の生産性向上に向けた気象変動に対応するための高温対策、施設化が徐々に進んでいるものの、地域の導入率は低い。



普及活動のねらい

～福島県園芸振興プロジェクト（令和3年度策定）に基づき、
関係機関と一体となりきゅうり振興に取り組む～

◆新規就農者から選定した重点支援対象者支援による
野菜担い手のモデルケースを創出する。

◆きゅうり栽培経験の浅い生産者向けの勉強会「**きゅうり基礎力アップ研修会**」や関係機関による「**きゅうり振興会議**」を開催するとともに、施設化を推進する。

◆生産性向上に向け、環境制御技術や自動かん水装置等の**新技術導入**を推進する。

普及指導計画の成果測定事項

1 モデルケースの創出

重点支援対象者計画達成率 (%) 目標80%
関係機関と連携した支援組織数 (累計) 目標3件

2 研修会の充実による単収アップ!

きゅうりの単位収量 (kg/10a) 目標8,000kg

3 関係機関との連携! 「きゅうり振興会議」

新規施設化 (雨除け、防虫ネット、促成抑制) 面積 (ha累計) 目標4.5ha

4 新技術導入による儲かるきゅうり栽培

環境制御技術導入戸数 (累計) 目標40戸
自動かん水装置導入戸数 (累計) 目標26戸

活動 1

モデルケースの創出



活動1.モデルケースの創出（内容）



◆重点支援活動を実施

野菜普及員4名が、支援対象者各1名を設定、モデルケースの育成に向け、5年間支援する。

【主な活動】

- ・こまめな巡回指導
- ・作付計画・中間・年度実績作成
- ・所内検討
(次長・課長・キャップ・新規就農担当者も参加)

2人目

2人目

- A 施設きゅうり（仁井田・1年目） B 露地きゅうり（玉川・3年目）
C ミトマ + ブロッコリー（平田・5年目） D ネギ（天栄・1年目）

2人目

活動1.モデルケースの創出（内容）



• PDCAサイクルを意識した指導

(例) 病害虫防除の場合

P：病気発生を確認し、農薬を決める。

D：防除を実施。

C：効果（病気の状況）を一緒に確認する。

A：次の散布計画を検討する。

病気継続→3日後に治療剤

落ち着いた→5日後に予防剤

強化！！



こまめに巡回し、作業状況や実施した作業の効果を対象者と一緒に確認し、次の作業を決めることを意識的に行うことで、理解を深めることができた。

↑就農初年度のため、しっかり散布できているかも確認

活動1.モデルケースの創出(内容)

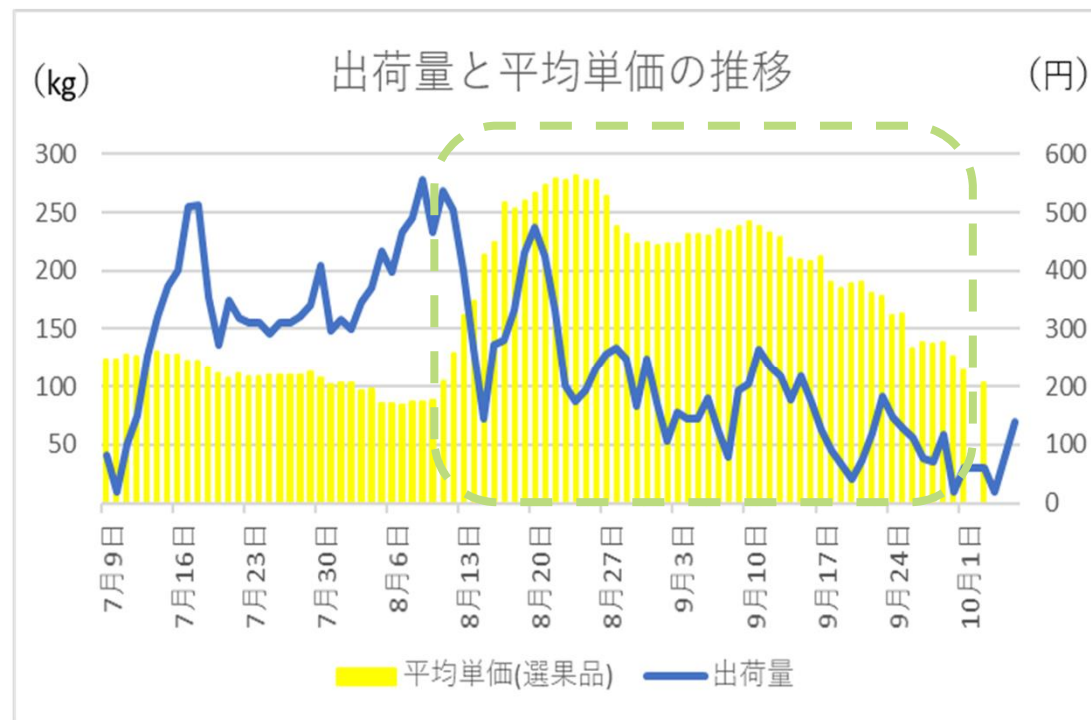
◆出荷実績に基づく面談

単価の高い時期に出荷量が確保できて良かった！！



かん注や葉面散布を実施したり、防除も単剤防除に切り替えたことが、良かったと思う！！次作は早めに対応したい。

出荷実績を「見える化」し、1年の振り返りをした。良かった点や反省点を話し合い、次作の対策を生産者と一緒に考えた。



活動1.モデルケースの創出(成果)

◆園芸品目における新規就農モデルケース ～施設きゅうり～ を作成！就農相談に活用！

●モデルケース第1号として、施設きゅうりの栽培スケジュールや就農後の単収と販売額の推移、経営改善の推移をまとめたチラシが完成し、関係機関に共有すると共に、就農相談に活用することができた。



園芸品目における新規就農モデルケース～施設きゅうり～

令和5年6月
 県中農林事務所 須賀川農業普及所

1 施設きゅうりの年間スケジュール例

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成30年度												
令和元年度												
令和2年度												
令和3年度												
令和4年度												
令和5年度												

2 モデルケース対象者について

・親石町のS氏、他業種から転身。祖父母がきゅうりを作っていたが、本人は経験なし。
 ・農業短期大学校で2年間長期研修を受講後、32歳で就農。
 ・農業次世代人材投資資金を事業費2年間、経営開始5年間受給。
 ・経営規模: 半促成きゅうり 14a、促成きゅうり 14a、水稲 60a
 ・労働力: 1名+α(一部、収穫や梱包は母親が手伝う)
 ・農地の取得方法: 実家の農地
 ・実家所有の機械: トラクター(25馬力)、軽トラック、管理機

3 就農後の単収と販売額の推移

補助事業を活用しハウス(14a)を建設、事業申請→ハウス完成の2年間は露地きゅうりに基礎習得。毎年栽培上の課題に対して改善を図り、着実に単収・販売額がアップしてきている。

単収の推移 (t/10a)

販売額 (千円)

4 経営改善の経過

H29年度: 露地栽培1作目、きゅうり栽培の基礎を習得。
 H30年度: 露地栽培2作目、抑製栽培はハウスの着工が遅れ事態。
 11月来はハウス完成。
 R1年度: 半促成栽培→慣れないにも誘引で、管理が間に合わず。
 新製肥料、**【二子栽培に変更】**作業性が改善し、適期管理できた。
【田舎栽培】、急ぎでかん水が可能になった。
 ハウス周りに**【防風壁】**したが、まだ排水対策不十分。
 R2年度: 抑製栽培終了後、排水不良箇所**【管渠工】**→排水性が劇的に改善。
 R3年度: 半促成栽培でモミジス根腐病発生し減収。→**【薬液剤】**
 →抑製栽培はほとんどとどまらず→作の切り替え時に**【土壌消毒を継続】**。
 R4年度: 抑製栽培終了後、連作障害の同一化や病害予防等のため**【農薬高導入】**。
 R5年度: 抑製栽培終了後、空申連作確保や作業性改善に**【バイオコスト導入予定】**。

5 就農後に揃えた施設や機械等

機械・施設名	導入年度	価格 (税込)	事業等の活用
自走式防除機	H29	80万円	
ブラソイラ(アタッチメント)	H29	30万円	
ハウス一式(7.2m×57.6m×4連棟)	H30	2,110万円	H30来り豊かなふくしの みの露地整備事業 +JJA露地整備事業
灌水装置、暖房機、環機付装置			
井戸掘削	R1	200万円	
運搬用車両(雨天時使用)	R1	340万円	
扇風機設置(7a分)	R2	10万円	
200Vケーブル(100V/200V/1連棟)	R4	60万円	露地農機付作業車
農機庫 8台	R4	2,830万円	単収額 950万円
合計			

※その他 実家所有の機械: トラクター(25馬力)、軽トラック、管理機 各1台

6 本人コメント

<p>・就農のきっかけ</p> <p>13年間他業種で働いていたが、長時間勤務と収入面で不安を抱えていた。親石町はきゅうりの産地で「きゅうりは稼げる」のはよく聞いていて、タイミング良く補助事業の話もあったので、「実家の農地もある。いっしょにハウスきゅうりも作ってみるか」と就農を決意。</p>	<p>・就農までの準備</p> <p>普及所で就農関係の支援策の説明を聞き、県の農業短期大学校で2年間の長期研修を受けた。就農後はハウスが完成するまで、露地きゅうりを試作することで「管理作業を身に付け、普及所主催の研修会にも参加」。</p>
<p>・就農して良かった点</p> <p>朝晩の収穫等の特になしの作業以外は、やるもやらないも自分次第、全て自分の裁量でできる。人間関係の負荷もなく、自分のペースで自由作業できるのが性に合っている。</p>	<p>・経営が安定したの？</p> <p>売上で1200万円は欲しいけどまだまだ。これまで、排水対策や土壌病害虫の対策等を行って、年々単収は伸びており、現在、年々作業計で約28t/10a、単収30tを目指したい。</p>
<p>・苦労したことは？</p> <p>出稼経費等、思った以上にコストがかかる。燃油費も手元になっており、最終的に手元に残るお金を考えると、無加量栽培でもよかつた気がする。最近は肥料代もかなり高騰している。</p>	<p>・失敗談について</p> <p>一作目の誘引方法を、周りのハウス栽培で一般的なヒモ誘引ではじめてが、露地でやっていたアーチパイプと違って管理が立体的で、作業に時間がかかってしまし、管理が後手後手になってしまった。次の作からはアーチパイプに変更した。</p>
<p>・就農に向けたアドバイス</p> <p>1つ目は、はじめる前にいろんな人の話を聞いて、いろんな現場を見学に行って、イメージがつかぬこと。 2つ目は、根を大事にする。連作や土壌病害をなく見、はじめからしっかり対策を。 3つ目は、補助事業があるからといって、はじめから過剰投資しない。必要性を感じてからで遅くはない。</p>	

活動 2

研修会の充実



活動2.研修会の充実（内容）

① 篤農家の作業動画を撮影し、教材として活用



	篤農家（Sさん）	篤農家（Oさん）
4月	肥料散布・耕耘	畦立て・土壌消毒
5月	セル苗移植・苗管理 定植・かん水	購入苗の育苗管理 定植・かん水・追肥
6月	土寄せ 脇芽かき・葉かき 親づる摘芯・収穫	土寄せ 脇芽かき・葉かき 収穫
7月	防除（自走式防除 機）	防除（手散布）
9月	かん水装置撤去	

- ・作業のポイントや気を付けていることは何ですか？
- ・コツやこだわりは？ ...等、インタビューしながらの撮影。
- ・週1回程度は場を見て、生育や篤農家の管理技術を調査！！

活動2.研修会の充実（内容）



受講者の感想

- ・作業のイメージがつかみやすかった。
- ・自分のやり方と違うやり方を見られた。今度、自分のほ場で試してみたい。
- ・上手な人ほど、丁寧な管理をしているのが分かった。見習いたい。
- ・〇〇作業の動画も見てみたい。

アンケートでは、受講者全員が「作業動画が参考になった」との回答であり、他作業のリクエストも寄せられた。

活動2.研修会の充実（内容）

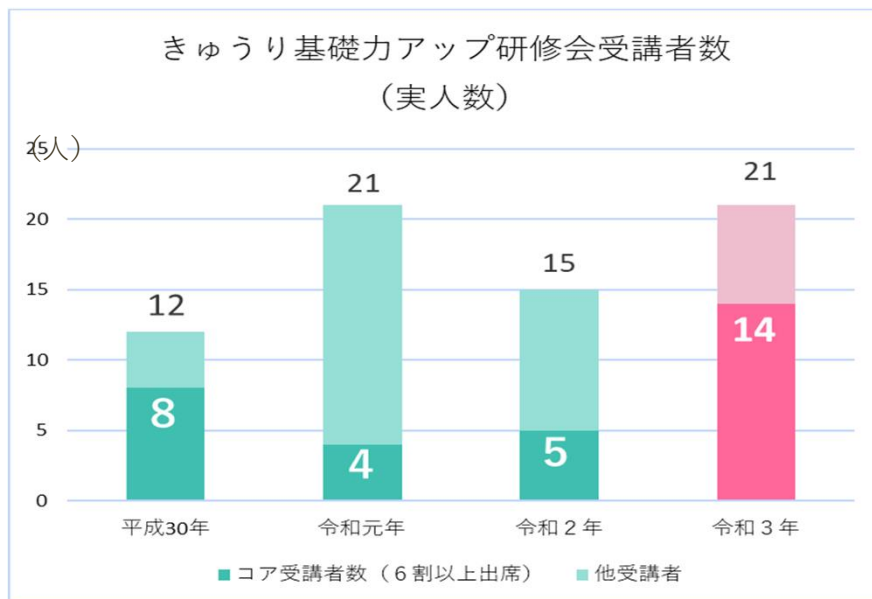
② 作業動画を撮影した篤農家ほ場での現地研修



- ・ 篤農家ほ場で3回実施（6、7、11月）。
- ・ 事前に作業動画を見てから、現地で研修。
ほ場準備～仮植～定植～芽かき～摘芯等
- ・ 質問等も多く、メモや写真を取りながら、熱心に受講する様子が見られ、充実した研修となった。

熱心な受講生を見て、篤農家から動画撮影や研修の受け入れ等に引続き協力したいとの声をいただいた。

活動2.研修会の充実（成果）



- ・研修会の内容を充実させたことで、受講者数が増加した。
- ・コア受講者（6割以上出席）が大幅に増加した。



	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
回数	12回	4回	5回	5回
延べ人数	65人	34人	30人	67人

- ・令和4年度の受講者の平均単収は9.7 t / 10 aで、地域の平均単収7.8 t / 10 aを上回り**技術力向上に貢献**することができた。

活動2.研修会の充実（今後の活動）

- 作業動画をさらに充実させる。

- ・ 摘芯や葉かき作業は、農家目線での撮影が効果的？
（篤農家に目線カメラを付けて作業をしていただけないか...）
- ・ 露地栽培だけでなく、施設栽培の作業動画を撮影する。

目線カメラ



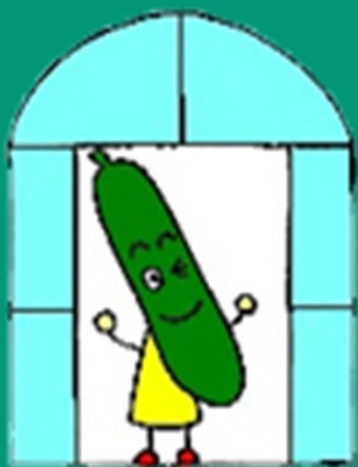
- 現地研修は、今後も篤農家のほ場で実施する。

受講生の要望を取り入れ、
篤農家等の協力を得ながら、
より充実した研修会をめざす。



活動3

関係機関一体となった施設化 「きゅうり振興会議」



きゅうり振興会議での普及の役割

- きゅうり産地を担う新規就農者・若手農業者を産地一体となって育成・支援する。



活動3.きゅうり振興会議での活動（内容）

●きゅうりの振興方策について検討

- ・会議を年4回開催し、きゅうりの振興方策について関係機関と検討した。



【主な検討内容】

- ・きゅうりの生育状況と病害虫の発生状況確認
- ・普及指導員によるきゅうりん館での相談窓口設置
- ・施設化推進のためのチラシ作成や推進対象者リスト化
- ・優良生産者の収量データや農薬散布履歴、施肥実績をJAより情報提供。普及所での分析とフィードバック。
- ・中堅農家による就農希望者の研修受入れ
- ・ハウス継承について
- ・「令和5年度須賀川・石川地区きゅうり振興大会」の開催

活動3.きゅうり振興会議での活動（成果）

- JA、市町村と、きゅうり振興に関する情報共有（各種補助事業、作型別生産者数、就農モデルケース資料、譲渡可能なハウス情報、きゅうりん館利用実績、GI登録等）や、施設化・新技術の導入推進、相談窓口の設置、優良事例調査の実施、きゅうり振興大会の開催等について、協議することができた。



活動3.きゅうり振興会議での活動

(今後の活動)

・検討内容をより充実させ、新規就農者育成と施設化を核としたきゅうり振興体制をとる。

・連携して収集した産地データを解析し、今後のきゅうり産地の維持発展のため必要な協議を行う。

今後も、地域の大切な担い手を、関係機関一体となって支援する。

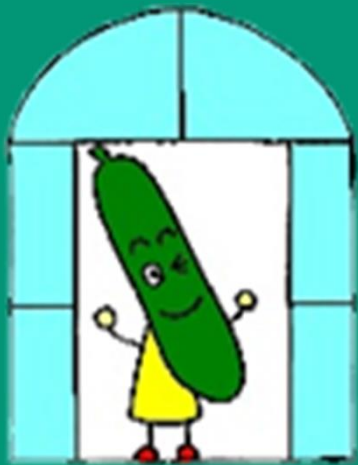
・若手農業者の困り事や要望等を把握、チーム内でしっかり共有しながら、支援策を検討する。

・地域に必要な「新しい技術」や「取組等」は、実証を踏まえ、効果等を確認した上で普及する。

・就農希望者の研修体制を構築し、きゅうりでの就農を誘導する。

活動4

新技術の導入による単収アップ



環境制御技術の導入

ハウスきゅうりの環境制御システムについて+

JA 夢みなみ・須賀川農業普及所 令和2年7月

近年、作物の生育にかかわる「温度」「湿度」「光」「風」「二酸化炭素」「蒸水分」などの環境要因を総合的に判断して作物に最適な環境に近づけることで、光合成を最大限に高めて収量、品質を高める環境制御技術の取組によって、収量や品質を飛躍的に向上させる事例が全国的に増えています。

1 環境制御システムについて

- ★こんな方におすすめします！
- (1) 現状の単収・品質をさらに向上させたい。
- (2) ハウス内の環境を知り、データに基づいた管理を行いたい。
- (3) 後継者に栽培データを渡し、技術を継承したい。



2 環境制御技術について

(1) 環境制御技術とは？

作物の生育にかかわる「温度」「湿度」「光」「風」「二酸化炭素(CO₂)」「蒸水分」などの環境要因を、総合的に判断して作物に最適な環境に近づけることで、光合成を最大限に高めて収量、品質を高める技術です。



(2) 何をすればよいの？

まずは測定してみよう！！
まずは、自分の栽培施設内の環境を知ることから始めよう。環境測定装置を導入し、実際の測定値と目標値を比較する。

推進チラシを作成し、仕組みと効果、導入経費について説明。導入後のスムーズな活用に繋がるよう、データ解析にも着手！

3 須賀川農業普及所管内の実証について

- (1) 調査経緯概要
 - ア 設置場所：須賀川市大東地区
 - イ 実証面積：2.0a（半促成栽培＋抑制栽培）
- (2) 実証内容
 - ア 導入機器
 - 環境測定装置：プロファイダーⅢ（株式会社 誠和）
 - 二酸化炭素発生装置：タンセラ TC-2000S（株式会社 パリテック新潟）
 - イ 事業費
 - 環境測定装置一式（測定装置、PC等）：320千円
 - 二酸化炭素発生装置一式（本体、コントローラー等）：570千円
 - 付帯工事（取り付け、電気等）：575千円



- ウ 取組の概要
 - 環境測定装置の導入により、ハウス内の環境を把握し、光合成に最適な管理を行った。
 - ① 二酸化炭素は日中外気並の濃度となるよう施用する。
 - ② 温度管理は日の出前から早朝加温とし、午前より午後の温度を上げ、夕方は温度を下げてからハウスを閉める。
 - ③ 温度を下げるために 早めにカーテンを開ける。
 - ④ かん水量及び施肥量を以前より2～3割増やした。



(3) 成果

実証に係る設備と増収効果から費用対効果を試算した結果、10aあたりの収量増加分の販売額（1100千円）が、設備の減価償却費（209千円）を上回りました。
また、各種補助事業の活用が見込めるので、ぜひ、環境制御システムの導入をご検討ください。

環境制御システムの導入に興味のある方は、最寄りのJA各支店または県中農林事務所、須賀川農業普及所経営支援課（☎0248-75-2181）までご相談ください。

日射制御型自動かん水装置の導入

露地きゅうりの自動かん水装置について

JA 香みなみ・須賀川農業普及所 令和2年7月

近年、露地きゅうりにおいて、定植直後や梅雨明け後の高温・乾燥等の影響が大きな問題となっています。高温・乾燥の対策として、こまめなかん水管理が挙げられますが、収穫作業や他作物の作業と重なってかん水管理ができず、生育や収穫量が落ちる事例が増加しています。そこで、電源のない露地ほ場でも利用可能で、天候に応じて自動でかん水を行う装置の導入をおすすめします。

1 日射制御型自動かん水装置について

(1) どんな装置なの？

夏場の水不足による収穫・品質の低下を解消するために開発された装置で、かん水のための水源に限られるほ場でも利用可能で、福島県内でも、安達地域や田村地域のきゅうりやなす等の露地栽培で利用が広がっています。

電源のないほ場でも、

比較的大いほ場面積でも利用できる。
 ・多くの水量を必要とする作物向け。
 ・価格は約35万円/10a。

イ ソーラーバルサー-E

・太陽光で発電した電気を蓄積し、電気が一定量貯まるごとにポンプでかん水するシステム。
 ・タンクを高所に設置する必要がなく、設置やメンテナンスが容易。
 ・水源がなくても、汲んできてかん水を行うこともできる。
 ・比較的小面積のほ場向け（適正5a、最大15a程度）。
 ・価格は約28万円/10a。

2 実証試験の結果について

★県内の事例

安達農業普及所では、露地きゅうり産地を新規で、「ソーラーバルサー」の実証を行いました（H30）。

(1) 調査ほ場概要

- 設置ほ場：安達農業普及所管内
- 調査目的：露地きゅうり
- 定植日：7/1 収穫期間：8/1～9/30

(2) 調査結果

○収穫

かん水により病徴の発生や前数の増加につながり、最終的に調査区の収穫量が慣行区を476kg/10a上回りました。

期間別では、収穫盛期（9月）

月	調査区	慣行区
8月	476	300
9月	1514	1278
10月	278	420
合計	2268	1798

最終的に調査区の収穫量が慣行区を16%上回りました。

期間別では、収穫盛期（8月上旬）以降は、調査区の収穫量が慣行区を上回りました。

(3) 生産者の声

収穫していても収穫が多いのが分かった。
 農務の条件の年でも、差がはっきりと出ていて、通常の年ならばもっと差が出ていたのではない。

水くみの手間はかかったが、置いておけるので楽だった。その分、収穫や管理に手をかけられた。

3 導入について

露地きゅうりの場合、慣行栽培（須賀川地域 H29～R1平均 反収：7,000kg/10a 単価250円/kg）より10%増収したとして試算すると、1年で販売額が175,000円上がり、**約2年で導入コストが回収できると**。

また、各種補助事業の活用が見込めるので、ぜひ、自動かん水装置の導入をご検討ください。

自動かん水装置の導入に興味のある方は、最寄りのJA各支店または県中農林事務所、須賀川農業普及所経営支援課（☎0248-75-2181）までご相談ください。

推進チラシを作成し、仕組みと効果、実証ほの成績、導入経費について説明。毎月開催されるきゅうりの指導会で有効活用！

ミストによる高温対策の実証

別紙様式2 取組年度: 令和3年度～令和4年度

簡易ミスト設置による高温対策 野菜特産

原中農林事務所須賀川農業普及所

須賀川・石川地域農業技術革新推進協議会(管内各市町村、JAあまのみ、実証は設置農家、実証技術提供メーカー、福島県(農業振興課、農業総合センター、県中農林事務所))

1 実証の背景・概要

(1) 背景

- 現状: 管内はさやうりの産地であるが、定植後の乾燥や、梅雨明け後の高温・乾燥の影響により、雨よけ栽培においても、萎れや葉焼けの発生や、草勢低下が問題となっている。環境制御技術の中では、ドライミストの自動制御も研究されているが、導入コストは高額となり、導入は難しい。
- 改善方向: ドライミストよりも安価な簡易ミストの導入により、ハウス内の湿度・湿度環境を改善する。

(2) 実証の概要

- 導入機材及び面積
 - 簡易ミストノズル: ケールネットプロ(ネタフイム)
 - 環境測定装置: プロファイナダー(誠和)
- 実証①の制御タイマー: Do/ルバ温度センサーセット(T&D Corporation)
 - 実証は面積: 5a、定植日: 令和3年4月30日、令和4年5月1日
- 実証②の制御タイマー: 雑草冷却オートレイン(スナオ電気)
 - 実証は面積: 86a、定植日: 令和3年6月20日、令和4年6月19日
- 技術の概要: ハウス上部に簡易ミストを設置し、定植後から高温期にかけて、晴天時に噴霧を行う。

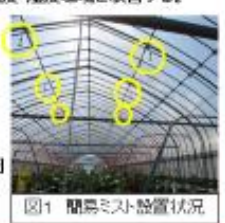


図1 簡易ミスト設置状況

2 実証の成果

(1) 成果

- 収穫前までの時期で特に効果が高く、晴天時、日中平均で気温が2.0～3.0℃低下した(図2)。また日中平均で飽蒸が4.8～5.3g/m²低下し、乾燥状態が緩和された(図3)。
- 主枝上段の葉焼け・芯焼けの抑制効果を確認した。

(2) 課題

- 当実証では病害発生には差はみられなかったが、病害発生が多い場合は、葉濡れにより病害が拡大する可能性がある。
- 水分を気化させるためには、ミストノズルからさやうりまで十分な距離がとれるとよい。軒高の低いハウスでは、距離を確保するのが難しい。

(3) 産地への波及効果

- 今年度、高温により葉焼け・芯焼けが多発したこと、本技術に興味を示す生産者がいた。十分な水源を確保し、自動かん水装置によるかん水ができていない場合は、さらなる高温対策として導入が見込まれる。

(4) 次年度の対応

- 指導会等とおして、管内での高温対策実証事例として紹介する。農業総合センターでは引き続き次年度も試験が継続されるため、その結果についても生産者・関係機関に周知する。

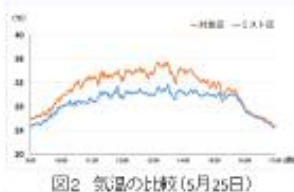


図2 気温の比較(5月25日)

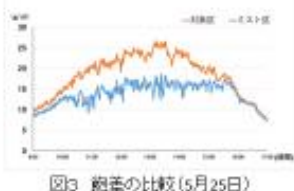


図3 飽蒸の比較(5月25日)

3 実証担当農家・産地より

- ミスト稼働による温度低下は、体感として十分感じられ、特に午後の収穫作業時にハウスに入ると涼しく、作業が楽になった。ミスト稼働により、傷枝の発生が良くなったと感じた(実証担当農家)。
- 主枝の伸長速度は、ミスト区の方が早いという結果は得られたが、収量差としては当実証では確認できなかった(実証担当者)。

◆夏秋産地に大きく影響する高温などの異常気象に対応するため、「**ICT活用園芸産地革新モデル確立事業**」を活用して簡易ミスト設置による高温対策の実証ほを管内に設け、2年間の実証を行った

◆収量の向上は認められなかったものの、葉やけ・芯やけの軽減と**作業性の向上**が認められた。

◆昨年の暑さもあり、導入を検討する生産者が増加。

普及成果測定事項の成果



普及指導計画の成果測定事項

1 新規就農モデルケースの創出

重点支援対象者計画達成率（％） 目標80％
関係機関と連携した支援組織数（累計） 目標3件

2 研修会の充実による単収アップ！

きゅうりの単位収量（kg/10a） 目標8,000kg

3 関係機関との連携「きゅうり振興会議」

新規施設化（雨除け、防虫ネット、促成抑制）面積（ha累計） 目標4.5ha

4 新技術導入による儲かるきゅうり栽培

環境制御技術導入戸数（累計） 目標40件
自動かん水装置導入戸数（累計） 目標26戸

普及指導計画の成果測定事項

1 新規就農モデルケースの創出

重点支援対象者計画達成率 (%)

実績89% 【A】

関係機関と連携した支援組織数 (累計)

実績3件 【一】

2 研修会の充実による単収アップ!

きゅうりの単位収量 (kg/10a) 実績7,687kg 【D】

高温干ばつの
異常気象でも
大健闘!
前年比98%

3 関係機関との連携「きゅうり振興会議」

新規施設化 (雨除け、防虫ネット、促成抑制) 面積 (ha累計) 実績4.5ha
【A】

4 新技術導入による儲かるきゅうり栽培

環境制御技術導入戸数 (累計)

実績37件 【D】

自動かん水装置導入戸数 (累計)

実績29戸 【A】

2件
増えたが
残念!

普及活動による岩瀬きゅうりの未来



普及指導活動による未来

1 新規就農モデルケースの創出

新規就農者が早期に安定した所得を得られるようになる！

2 研修会の充実による単収アップ！

基本技術の習得と篤農家の技術伝承により

きゅうりの単収が大幅アップ！

3 関係機関との連携「きゅうり振興会議」

関係機関の役割分担と連携で、異常気象にも負けない防虫ネット

被覆栽培などのさらなる導入で施設化率が80%を超える！

4 新技術導入による儲かるきゅうり栽培

環境制御技術や自動かん水装置の導入、ミストによる

高温対策が実施され、ますます儲かるきゅうり産地へ！

そして生き残る産地を創る！

- 新しい取組にチャレンジ！！

産地に必要なことを、産地の力を活かしながら、
試行錯誤を繰り返して、生き残る未来のある産地を目指します。



FGAP団体認証
取得拡大！

トレーニング
ファーム開設！

GI登録！

みどり認定の
取得！

スマート農業
の実践！

岩瀬きゅうり
キャラクター
誕生！



© ゆうはら

ご清聴ありがとうございました。